



家庭児童相談室の窓から

「先生から、子どもさんの気持ちはわかります、と言われたけれど、わかるはずがない」とおっしゃった保護者がいました。子どもさんは不登校です。普段の先生の言動がとても子どもを理解しているものとは思えない、という思いが感じられました。

「気持ちがわかる」というのは難しい言葉です。相談室でも相談者の気持ちをわかろうとしながら、お話をお聴きしますが、わかるということもあればよくわからないこともありますし、たとえわかったと感じたとしても、それはこちらの勝手な憶測に過ぎません。

問題に直面している人のお話をお聴きするときに、共感すること、その気持ちに寄り添って聴くことはとても大切です。あなたの感情は当然だと思う、もしわたしがあなたの立場

だったらきっと同じように感じると思う、という聴き手の気持ちを伝えるということですが、やはり難しいと感じます。「わかる」と口にすると、逆に「わかっていない」「わかるはずがない」と感じさせてしまう危険がある一方、言葉にしなければ話し手が不安に感じることもあるからです。

「あなたの気持ちはわかる」という言い方には傲慢な響きがあるのかもしれませんが。わたしたちは、自分の気持ちを誰かにわかってもらいたいと願う一方で、簡単にわかられてたまるか、という一面をもちますし、自分で自分がわからなくなることもあります。あなたの気持ちを簡単にわかることはできないけれど、わかりたいと思っている、いう姿勢を示すことがすべてなのかもしれません。

(家庭児童相談室 相談員 砂川真澄)

家庭児童相談室の御案内
あなたの支えに…＊
家庭のこと、子どものこと、自分のこと



熊本学園大学付属社会福祉研究所 家庭児童相談室

家庭や家族に関する問題や、子どもさんのことについて
ご相談をお受けします。ご心配なこと、お困りなことが
ありましたら、お気軽にご利用ください。

受付 水曜日10:00～15:00/金曜日10:00～15:00
(12:00～13:00は昼休み)
年末年始、祝祭日は休みです。費用は無料です。

相談室電話 ☎ 096-364-8732

発行所 熊本学園大学付属社会福祉研究所

〒862-8680 熊本市大江2-5-1 ☎ 096-364-5161 (内線1753)

発行人 所長 豊田謙二 編集人 社会福祉研究所委員会

印刷所 コロニー印刷 ☎ 096-353-1291